

生産者さんに

KITEMITA vol.4



今まで捨てられていたものに
価値を見出し、
コーヒーのおもしろさを届けたい。

返礼品：コーヒーの木1本まるごとギフトセット
2007年よりコーヒー栽培を始め、10年かかりようやく栽培方法を確立し、2017年に初めて300本の木から収穫することに成功しました。

Q1. コーヒー栽培にかかる思いを教えてください。

コーヒー農園を始めてから、生産者である私にしかできない事があるのではないかと考え、たどり着いたのはコーヒーの木丸ごと1本をおいしく味わう研究でした。

世界のコーヒー生産の多くはプランテーションで発達したことから、貧しく、虐げられてきたという側面があります。小規模な農家は、良質なコーヒーを作っても、安定した生産と品質の確保は難しいんです。そこで私は、生産者はコーヒーの木を育てているのだと気づき、コーヒーの花、果実、葉など、今まで捨てられていた部分から新しい商品を作りました。

Q2. 大変なことや、課題はありますか。

日本の環境では1本の木から年に100~150gのコーヒー豆しか収穫できません。さらに台風などの影響から、日本はコーヒー栽培がとっても難しい環境にあるんですよ。

Q3. 今後、挑戦したいことはなんですか。

コーヒーの木1本丸ごとの楽しさやおいしさを消費者へお届けすることはもちろん、世界のコーヒー生産者の実験圃場でありたいと考えています。生産者の出荷アイテムを増やし、収入を上げ、雇用機会を増やすことにつながるように、今まで捨てられていたものに価値を見出し、それを新しい商品にしていく。

私の新しい取り組みを通して、海外の生産者にもコーヒーの持つ新たな可能性、ノウハウをフィードバックしたいと思っています。



徳之島コーヒーファーマーズの宮出博史さん。



黄色い品種のコーヒーチェリー。



青々と茂るコーヒーの森。